



《校訓》 明朗 剛健 創造

太田中だより

平成30年9月28日発行 厚岸太田中学校 第7号

折り返し点

校長 西澤和訓

まずは、このたびの北海道胆振東部地震で亡くなられた方のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

私が学級担任を持っているときに、9月の末に出す学級だよりには定番のネタがありました。それは「9月30日って何の日か知っている？ えっ 西澤先生の〇〇回目の誕生日の次の日だって。」と自分の誕生日（私は9月29日が誕生日です）を何気なくアピールしながら、「実は学校での1年の半分が終わる、折り返し点にあたる日なんですよ。」というオチでした。特に2年生の担任のときは、中学校生活の半分が終わることを強調したものです。



簡単に考えれば、ごくごく当たり前のことです。しかし、このことを意識することはあまりないのではないのでしょうか。1年生は入学して半年が経ち、2年生は中学校生活3年間の後半戦がスタートします。そして3年生は、中学校生活は残すところ半年のみとなるのです。加えてこの時期は、1・2年生にとっては学習面でも折り返し点と言えます。それはこのころから数学・英語を中心に学習内容が難しくなり、頑張った人とそうでない人の差が開く時期と言われるからなのです。

今は、中間テストも終わり、文化祭の準備に忙しいことと思います。しかし、そんな中でも授業は進んでいきます。行事がある中でも、自分のすべきことを見失わないようにして下さい。

さて、話は変わりますが、9月中旬にJA酪農祭、自治会の敬老会、パークゴルフ大会がありました。私はパークゴルフ大会には参加できませんでしたが、その他の2つの行事に参加して、太田という地域のすばらしさ、たくましさを改めて感じました。生徒の皆さんにも、その地域で暮らす一人として誇りを持ち、将来的にその良き伝統を引き継いでもらいたいと思います。

地域防災訓練

9月26日（水）に、太田小学校、太田中学校、太田自治会の三者合同の地域防災訓練を行いました。これは、今年度から始まった太田地区コミュニティ・スクールの活動の一環として行いました。

学校での避難訓練では、「地震や火災に遭ったときにどこに、どう逃げるか」ということを学びますが、今回の地域防災訓練では、「地震や津波などで避難してきた人をどう受け入れるか」を、避難所設営ゲーム「DO!HUG」を行い、学ぶことができました。災害が起こったときに、太田地区は避難者を受け入れる避難所として機能する地域であることを踏まえ、中学生も地域の一員として自分たちに何が出来るかを考える機会となりました。また、お昼は自治会女性部の方々が炊き出しのカレーを作ってくれ、参加した全員でおいしくいただきました。役場危機対策係、自治会役員、自治会女性部の皆さん、ご協力ありがとうございました。



北海道全域ブラック・アウト!

2日間の大停電! その時どうしてた?

9月6日午前3時過ぎに起きた震度7を記録した北海道胆振東部地震の影響により、6日・7日の2日間、北海道全域が停電となりました。釧路地方は断水などは少なく、停電のみのところが多かったようです。それでも2日間の停電で、いつも使えているものが使えない、午後6時を過ぎるとほぼ真っ暗になってしまうなど、いかに普段の生活が電気に頼っていたかということを感じ知らされました。反面、街灯の光がないため、星空がものすごくきれいで、普段では見えない天の川などもはっきりと見え、「星が降ってくる」という表現がぴったりくる夜空を見る事が出来ました。

2日間、各ご家庭では大変だったと思いますが、地震の被害にあった厚真町を中心とする胆振地方ではいまだに避難所生活が続いているようです。札幌市の一部でも液状化現象や家屋倒壊などの被害も出ており、普段通りの生活にはまだ戻れないところもあるようです。実際の災害にあったときにはパニックになることが多いですが、落ち着いて自分にできる事を考え、行動するかが大事になります。今回の2日間の停電の経験は、いざというときにどのように落ち着いて行動するか、改めて考える良い機会にもなったと思います。災害は起きてほしくないですが、経験したことを様々な場面で生かせるといいですね。



9月24日（月）午後2時半頃と、午後8時20分頃に、太田中学校前付近から北西方向に道路を渡る親熊1頭がそれぞれ目撃されています。寺嶋牧場のデントコーン畑が荒らされているとの情報もありますので、再び出没する事も考えられます。

25日（火）から、徒歩（自転車）通学の生徒については、保護者による送迎やスクールバス乗車等の措置を取っていますが、登下校だけでなく、日常生活の中でもできるだけ徒歩での外出を控える等、気をつけて下さい。



10月の行事予定

日	曜	学校行事
1	月	朝会
2	火	
3	水	A L T 図書バス 文化祭総練習 フリマ準備
4	木	委員会 展示物完了
5	金	英語検定 明輝高校説明会
6	土	文化祭前日準備 フリマ準備
7	日	文化祭
8	月	体育の日
9	火	振替休業日
10	水	Lタイム A L T
11	木	学カテスト（3年総合B）委員会
12	金	振替休業日
13	土	
14	日	厚岸町中学生英語暗唱発表会
15	月	思春期講座（1年）
16	火	家庭科調理実習 職員会議
17	水	生徒会役員選挙 A L T 図書バス
18	木	朝会（認証式）委員会
19	金	
20	土	土曜授業日（A E D講習）
21	日	
22	月	研修
23	火	
24	水	A L T 研修
25	木	委員会
26	金	教育相談1
27	土	
28	日	こう福祉2 1 太田小学校学芸会
29	月	教育相談2
30	火	研修
31	水	A L T 教育相談3

教頭の独り言 「地震・雷・火事・オヤジ」昔の人は怖いものの代表として、こんな風に言ったそうなの。ところで、この「オヤジ」、親父ではないのか。大山事とかいて「おやじ」と読み、台風の事だったそうなの。うーん…やっぱり昔の人も自然災害には苦勞してたんだなあ。今だと「地震・雷・火事・オヤジ・停電・熊」というところかな？「天災は忘れた頃にやってくる」とも言うから、「備えあれば憂いなし」。日頃から心と物の準備しておかなきゃだわ。

全国学力・学習状況調査結果分析について（各教科の結果は、全国平均と比較。◎：10P以上、○：5P以上、－：同程度、△：-5P以下、▲：-10P以下）

【国語】

国語 A		太田
領域	話すこと・聞くこと	◎
	書くこと	△
	読むこと	◎
	言語文化 他	◎
評価の観点	関心・意欲・態度	△
	話す・聞く能力	◎
	書く能力	△
	読む能力	◎
形式	言語（知識理解技能）	◎
	選択式	○
	短答式	◎
	記述式	△

国語 B		太田
領域	話すこと・聞くこと	◎
	書くこと	◎
	読むこと	◎
	言語文化 他	◎
評価の観点	関心・意欲・態度	◎
	話す・聞く能力	○
	書く能力	◎
	読む能力	◎
形式	言語（知識理解技能）	◎
	選択式	○
	短答式	△
	記述式	◎

◎結果から（課題）

- ・国語 A 「書くこと」の領域において、課題が残る。
- ・語彙力に課題が残る。生徒が自分の語彙力の低さを意識できていない。

◎今後の手立て

- ・書く能力を高めるために、状況の意識・相手への意識・推敲の能力の3点をポイントとして押さえ、指導していく。
- ・授業の中で、読解能力を少し超えた難解な文を読む経験を積み、語彙力を増やしていく。

【数学】

数学 A		太田
領域	数と式	◎
	図形	－
	関数	○
	資料の活用	○
評価の観点	関心・意欲・態度	△
	数学的な見方考え方	△
	数学的な技能	○
	知識・理解	○
形式	選択式	○
	短答式	○
	記述式	△

数学 B		太田
領域	数と式	◎
	図形	◎
	関数	－
	資料の活用	◎
評価の観点	関心・意欲・態度	△
	数学的な見方考え方	◎
	数学的な技能	○
	知識・理解	△
形式	選択式	－
	短答式	○
	記述式	◎

◎結果から（課題）

- ・全体的には良い結果となっているが、生徒質問紙の結果を見ると、数学に対する関心意欲が低い。

◎今後の手立て

- ・生徒が興味関心を持てる授業を進めていく。

【理科】

理科			太田
枠組	「知識」に関する問題		◎
	「活用」に関する問題		○
分野	第1分野	物理的領域	◎
	第2分野	化学的領域	◎
		生物的領域	○
	地学的領域	◎	
評価の観点	関心・意欲・態度		－
	科学的な思考・表現		○
	観察・実験の技能		◎
	知識・理解		◎
形式	選択式		◎
	短答式		◎
	記述式		－

◎結果から（課題）

- ・全体的には良い結果となっている。

◎今後の手立て

- ・授業の中で、実験をするときの「条件付け」で、変える条件、伴って変わってしまう条件等を整理する場面で、生徒にしっかり思考させる等、改善していく。
- ・実験が終わった後も、振り返りを通して、思考をまとめる。

【生徒質問紙から】

◎結果から（課題）

- ・自己肯定感や自己有用感については、低い傾向にある。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事への関心が低く、自分が社会に対してどうしたらよいか等については、あまり考えたことがない。
- ・新聞をほぼ読んでいない。
- ・数学に対して嫌いだと答えている生徒が多い。が、数学は大切だと感じている。
- ・理科では、「自分の予想をもとに観察や実験の計画をたてていない」ため、「観察や実験の進め方や考え方が間違えていないかを振り返っていない」という結果が出ている。

◎今後の手立て

- ・自己肯定感や自己有用感を高める為に、日常の活動の中で、生徒本人が意識して頑張る場面づくりや、結果だけでなく途中の努力を褒める場面づくりを行う。
- ・コミュニティ・スクールを活用し、地域と連携した活動場面を通して、地域の一員としての自覚を促す。
- ・授業の中で地域や社会の問題や出来事を取り上げる。
- ・問題解決型の学習スタイルを各教科で共有し、活用する。

【全体を通して】

- ・今年度については、どの教科もほぼ全国平均を超え、良い結果となっている。
- ・生徒質問紙の結果からは、自己肯定感や自己有用感等について、低い傾向が出ている。様々な場面で、保護者・教員・友人等から認められているとは思いますが、生徒本人が望んでいる場面や褒められ方でないと、「認められた」と感じていない場合もある。生徒一人ひとりに合わせた「認め方」を探っていきたいところである。